



西村 佳子

NISHIMURA Yoshiko

京都産業大学 経済学部 教授
専門分野：金融論

略歴

1989年に大学を卒業、4年間の会社勤務を経て1993年岡山大学大学院経済学研究科に入学、1998年同文化科学研究科後期課程単位取得退学、日本学術振興会特別研究員を経て1999年京都産業大学経済学部専任講師、同助教授・准教授を経て現職。2013-2014年にカナダのカルトン大学の客員研究員。

最近の主な論文・評釈

- 金融教育が家計の金融資産選択に及ぼす影響—投資家タイプ別にみた教育効果測定の試み—
共著、2012年1月、季刊個人金融Vol6、ゆうちょ財団、No.4、49-57ページ。
- 確定拠出年金加入者像をとらえる試み
共著、2011年3月、生活経済学研究第33巻、49-57ページ。

研究紹介

「3万円を今消費するのか、自分の将来のために積み立てるのか」といった、人々が生きていく上で行う経済活動にまつわる判断は、たびたび間違っているとされています。人々が起こしやすい認知のミスを知った上で、年金や貯蓄の仕組みをどう作るかという問題や、認知のミスを起こしにくくすることに配慮した教育(金融教育)のあり方について、そして企業側がどのように社員に金融資産を提示しているかといった確定拠出年金を巡る様々な問題について研究しています。

迷ったら冒険心が満たされる道を行け。 不遇の時こそ清らかな目で世界を見よ。

研究テーマ

確定拠出年金を巡る企業と加入者の行動に関する研究

ることができることも研究の醍醐味です。

研究の道へ進んだきっかけ

金融業界で働いていたとき、教員免許を保有しているという奇妙な理由で、大卒新入社員向けの資格試験研修の講師を命じられました。講義を行うために仕方なく始めた金融や証券分野の勉強でしたが、市場の仕組みや証券の価格理論、金融論などを学ぶと、実務の中で感じていた疑問の霧が晴れるような貴重な体験をしました。これがきっかけとなり、大学院に進学して研究の道に進みました。

座右の銘

迷ったら冒険心が満たされる道を行け。不遇の時こそ清らかな目で世界を見よ。

これはふたりの恩師からの言葉です。新しい経験をすることを怖がるな、辛いときに鬱屈し不遇を嘆いてはいけない、というアドバイスは、幸せに生きるためのヒントなのかもしれません。

研究者になってよかったと思うこと

業界の利害関係に影響を受けることなく、重要だと思った問題に自らの意思で取り組み、分析結果に基づいてありのままに発言できることです。また、自分の研究テーマに関わる政府や様々な企業の方から情報をいただき、異なる視点から論じ

研究とプライベートの両立で工夫していること

現在進行形で仕事と子育ての間でじたばたしており、子育てと研究を含む仕事の高いレベルでの両立は、自分の能力では不可能だと痛感しています。子育てを優先すべき時期には細々であっても仕事を継続し、生涯を通じて研究とプライベートのバランスが取ればよし、だと思います。特に、他人に任せられることについては、遠慮無く人の手やサービスを利用するという割り切りを持つことは重要だと思います。

My Hobby

美術工芸品や化石の鑑賞、地層や遺跡巡りが好きです。学生時代に好きだった科目は、断然地学。ユネスコ世界遺産のJoggins Fossil Cliffsは苦勞して訪ねる価値のあるところでした。

BEST SHOT

たぶん乗り鉄です。写真は、食事おいしいけれど時間は恐ろしくアバウトなVIA鉄道。



人生の転機になった一冊／学生に薦めたい一冊

人生の転機になった一冊は、國村道雄(1986)『現代資本市場の分析』。この本に出会う前の私は、企業で実務に携わりながらも、現実を理解するための理論面での知識を持っていませんでした。当時の私にとって衝撃の一冊で、後年、著者の先生にお会いした機会に御礼を申し上げました。

未来の研究者へ一言

目的地までの道が直線であることは稀で、意に染まない回り道や、曲がりくねって先が見えない道の半ばで途方に暮れることがあります。しかし面白いことに、5年後10年後…或いはもっと先の時点で、苦々しい失敗や無駄に感じられた経験に助けられることがあります。どんな時も腐らず、楽観的な姿勢で進むことができれば、いつの間には前が開ける!です。

